

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171200124		
法人名	株式会社 恵み野介護サービス		
事業所名	グループホームだんらん 1階		
所在地	恵庭市有明町1丁目8番8号		
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果市町村受理日	令和2年12月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0171200124-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和2年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの横に綺麗な川が流れ、春には渡り鳥が訪れ秋には鮭が遡上する等自然に恵まれ四季を感じられ、入居者様と毎年、楽しみに過ごしています。また、「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」をモットーに、入居者様に寄り添い・出来る事へ参加を大切に日々、元気な明るい職員と共に家事への参加・天気の良い日には周りの花々を見ながら散歩へ行き、近くの公園で近所のお子様と触れ合いを持ち、入居者様の暮らしを豊かに・楽しく過ごして頂けるように支えています。また、ご家族との関係作りを大切に、2ヶ月に1回だんらん新聞を発行し、日常の様子を伝え面会時には、より詳しく様子を伝えるよう行っている。行事の際も、入居者様とご家族の絆を大切に一緒に過ごせる時間を作る工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームだんらん」は、恵庭コミュニティバス停から徒歩で5分程の静かな住宅地に立地している。事業所横には遊歩道もあり季節を感じながらゆっくり散歩が楽しめる。居間や食堂は広々とした明るい造りでクリスマスツリーや季節の装飾が施されており、家庭的な温もりが感じられる。事業所の夏まつりに近隣住民に無料チケットを配布して参加を呼びかけたり、町内会役員の計らいで節分に地域神社の獅子舞が訪れるなど、積極的に地域交流に取り組んでいる。近所から野菜や花の差し入れを受けることもあり、地域に根差した事業所となっている。管理者と職員は理念を共有し、活発に意見交換しながら利用者のより良い生活を目指して日々温かなケアに取り組み、ゆっくり寄り添ったり楽しみが持てる活動を取り入れるなど、一人ひとりに応じた適切な対応を行っている。管理者は普段から職員の話に耳を傾けて意見や提案を反映させ、適切な指導を行いながら職員の資質向上と資格取得支援に取り組んでいる。食事は寿司の出前やバイキング、餃子パーティーやクレープ作りなど楽しめるように工夫している。感染症対策をして近隣の散歩やドライブ、お花見や紅葉見学など積極的に外出している。看取りにも取り組みながら可能な限り事業所での生活が継続できるように全職員で支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念・スタッフ理念を共有し利用者様が望む生活を送れるようにチームで話し合いケアに繋がっている	住み慣れた地域の中で「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」当たり前の生活を送れるようにするという理念を掲げ、事務所などに掲示している。新人研修でも詳しく説明している。職員は勤務前や仕事に行き詰った時に確認して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元町内会に入会し、町内会長をはじめ回覧板を通し、地域活動の情報を得たりしてるがコロナの影響にて、それ以外の交流が出来なかった	例年は、事業所の夏まつりに無料チケットを近隣住民に配布して参加を呼びかけている。オカリナ演奏やゴスペルソングの披露でボランティアが来訪したり、節分には地域神社の獅子舞が訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時、ホームでの様子・取り組み・工夫等も報告し意見を頂いている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年はコロナの影響で事業所内での開催で対応していたが議事録等提出し情報交換をしサービスの向上に繋がっている	今年度は書面会議を開催し、感染症対策などの資料を配布して情報を提供している。家族の参加が少なくなっているため、今後は事前に参加できない家族の意見や疑問などを聞き取り、会議に活かすことも考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やネットワーク会議等に市の管理者が参加していたり、市より連絡があった際など、事業所・利用者様の状況報告をし協力関係を築いている	管理者は書類の提出で市役所を訪問したり、福祉課の職員が来訪した時に利用者の様子を伝えながら相談することもある。運営推進会議に市役所と地域包括支援センター職員が出席しているので、何かあれば相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を設置したり、積極的に研修に参加している。玄関の施錠も夜間以外行っていない。やむを得ずセンサー等を使用する場合は家族の理解と了承を得て承諾書を頂いている	禁止の対象となる具体的な行為を記載した「身体拘束廃止マニュアル」を整備している。資料を基に3か月ごとに身体拘束廃止委員会を開催して職員と共に学びを深めている。今後に向けて身体拘束廃止委員会の議事録と勉強会の資料を更に分かりやすく整理したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回必ず虐待防止の研修会に参加、報告会で全スタッフが身体的だけでなく精神的虐待について正しく理解できるようにし、日々虐待の有無についてスタッフと一緒に確認している		

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修会等の参加もしており学ぶ機会を増やしている。また、ご家族様にも家族様向けの研修案内等を渡し学ぶ機会の場を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定等の際は十分な説明を行い理解・納得を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には訪問時に問いかけ・出された意見や要望等はミーティングで話し合い反映させている	家族の来訪時や電話で利用者の様子を伝え、意見や要望があれば個人ごとに面談記録や別紙に記入して対応も記載している。2か月ごとに写真入りの「だんらんだより」を発行している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やスタッフ会議等でスタッフの意見や提案を聞いて反映させている	管理者は会議のほか、職員の夜勤時や日々の業務の中で個別に話をする機会を作り、意見や提案をケアや運営に反映させている。資格取得希望など、職員の意向に応じてシフトも調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ1人1人の努力や実績を把握しやりがいがあるよう工夫したり環境面や条件の整備にも努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年はコロナの影響にて外部研修に参加する事が難しかったが、働きながらトレーニング等を意識し努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGHでネットワークを作りサービスの質を向上出来る様勉強会や情報交換を行う取り組みをしている		

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用についての相談があるときは本人と面談し心身の状態・本人の思いを聞き、職員も本人に受け入れてもらえるように関係作りをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する前にご家族様にホームを見学してもらい不安なことや困っている事を聞き解消出来る様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用前に生活状況の確認・日常生活の様子を聞き必要な支援が出来る様に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の皆様が主役であることを理解した上で双方が尊重し合える関係を築くよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の様子・受診結果等を細かく伝えるようにし、そこから気付いたことを日々のケアに取り入れ活かせる様努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人に希望をとり聞いているも今年は外出も自粛しており対応しきれないこともあった	馴染みの理容師が継続して訪問したり、習い事の生徒が訪ねて来る方もいる。近所に住んでいた方が数人で来訪する利用者もいる。年賀状が届いた時は職員が代筆し、馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の思いや個性を尊重しながら一緒に協力し合っている。又、孤立しないよう声掛家等にも重点を置き対応している		

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の際や、サービス利用終了後も相談を受けたり関係性が切れぬよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い・希望をできる限り把握するよう努め、本人の本位に沿えるようにしている	会話や表情、仕草から思いや意向を把握している。利用開始当初は、個別に寄り添いながら思いの把握に努めている。現状把握シートを作成しているが、趣味や嗜好などの情報は不足している。	現状把握シートやセンター方式シート(B-3)を活用し、生活習慣や趣味・嗜好などの情報を更に充実させるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人のファイルを用意し、センター方式を活用しご本人・ご家族に確認しながら作成している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの状態を観察し、介護記録やカンファレンスを通して全職員が把握出来る様にしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケアのあり方について、スタッフ会議等で検討している。また業務中の気付きも反映し介護計画を作成している	利用者担当職員の評価を基に職員間で検討し、家族の意向を確認して3か月ごとに介護計画を作成している。介護計画の見直しに活かせるように「生活介護記録」に変化やいつもと違う状態なども具体的に記入していきたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に沿った記録を個別に記載し、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じ送迎を行ったり、既存のサービスに捉われない様柔軟なサービスが出来る様にしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はコロナの為外でのイベントや外食は自粛しているが、室内のレクで楽しめる様、支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	コロナの影響で一時期は電話連絡し薬の受領のみの対応をしていたが現在は従来の対応に戻り支援をしている	全員が以前からのかかりつけ医を継続している。事業所で送迎し家族が診察に同行していることが多いため、本人の健康状態はメモ書きで主治医に伝えている。受診記録は個別に記録している。	

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。変化がある時は訪問看護に連絡し指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の支援に関する情報を病院に提出している。病院関係・ご家族様と情報交換し早期退院に繋げられるようにしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、ご本人・ご家族様と十分に話し合い方針を共有し医療機関とも連携しながら取り組んでいる。又、本人・家族の意向によっては看取りの受け入れも行っている	「医療連携・重度化に関する指針」を作成し、利用開始時に説明している。利用者の体調変化に応じて家族の意向を確認し、希望に応じて看取りも実施している。今年度、勉強会を実施しながら看取りを行っている。今後振り返りを予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度はコロナの関係で外部研修に参加できない状況であったが、業務中の事故等職員と対応方法を考え実践力を身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防職員が立会い訓練を実施している。今年度は外部の参加を要請せず行った。又、地震・風水害のマニュアルを用意話し合いを行っている	昼夜の火災を想定した避難訓練を実施し、災害備蓄品も整備している。救急救命訓練講習も計画的に進めている。地震時の危険箇所の確認は行っているが、ケア別の対応についての話し合いは今後の課題となっている。	地震時の具体的なケアに応じた個別の対応について職員間で話し合い、マニュアルなどに分かりやすく綴るよう期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助の際にはご本人の気持ちを大切に羞恥心にも気を配り安心して頂ける声掛けをするよう努めている	申し送りは利用者の個人記録ファイルを示しながら行うなどプライバシーに配慮している。職員間で気になることがあれば会議の際に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせてご本人の思いや希望を感じ取ったり傾聴し自己決定できやすい様に働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切にしそれに合わせ対応している。意思確認が困難な方には入浴等職員側で決定する事もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様一人ひとりにその人らしい身だしなみが出る様支援している。又、月1回訪問美容にお願いしヘアカット等対応している		

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや食べやすいよう工夫し、一緒に食事を楽しく会話し食事が出来る様対応している。又、食事準備や片付けも状態に合わせて一緒にやっている	専門業者に献立作成と食材配送を依頼している。季節の行事や誕生日などのイベントに合わせて、利用者の好みの食事を作ることもある。出前やバイキングなど、食事を楽しむ工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や味付け等も個々にあわせ対応しており好みや食べやすい物の提供を心がけている。又、食事量・水分量も記録に記載し把握・確認を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で行える方へは声掛け見守りを、行えない方へは介助にて行い誤嚥防止に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し個々のパターンを把握、又表情や動作を見ながらスムーズに排泄が出来る様支援している。オムツ・パットについても職員間で話し合い検討している	自立している利用者もいる。夜間はパッドを利用している方もいるが、日中は利用者の状況に合わせて負担にならないように適切な声かけや誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態(日時、形状等)を記録し十分な水分補給や毎日の体操を行い排便を促すようにしている。夕食時ヨーグルト+オリゴ糖を提供しスムーズな排便になるように努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望を確認し無理せず入浴が行っている。浴中もコミュニケーションをとり楽しいひと時になるよう支援、また浴槽の出入りも安心して頂ける様慎重に行っている	主に日曜日以外の午後に週2回の入浴を支援している。入浴後に好みの飲み物を用意したり同性介助で対応するなど、利用者の希望に応じた入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動を促し生活リズムが崩れないよう支援している。夜間安眠できるよう寝具、室温、湿度にも気を配り対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様1人1人のファイルに服用している薬を記録しておりいつでも確認出来る様にしている。変更があった際はマーカーにて分かり易くしたりと工夫している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月毎にレクを企画したり、季節に合わせた飾りつけなど工夫している。1人1人の楽しみを聞き入れる様対応している		

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナの関係で外出を自粛していたが、散歩やドライブなど希望に合わせ支援している	普段は近隣の公園や川沿いの遊歩道などを散歩している。利用者の希望に応じてドライブで近隣のダムに桜や紅葉見学に行くなど、外出支援に努めている。車椅子の利用者も散歩に出かけ、外気に触れる機会をつづけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、施設管理にて金銭を管理している。自立している方へは一緒に買い物に行った際、支払いなど見守りしながら行う事もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話したい場合は声掛けいつでも電話をしたり出来る環境を作っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月毎のレクに合わせて季節に因んだ装飾をリビングや廊下にし、季節感を楽しめるようにしている。また、混乱を招くような飾りつけは行わないよう心掛けている	四季を感じるができるように季節に合った装飾をしている。利用者の日常の写真や動物の写真、利用者が制作したスクラッチアート、塗り絵などが廊下に掲示されており、家庭的で温かみのある共用空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごされることが多い利用者様にはレク等参加して頂ける様声掛けするなど心掛けている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者様が以前より使われていたものが置いてあり、本人ご家族と相談しながら居心地良く過ごせる空間作りをしている	好みのマットレスやタンス、使い慣れた家具を持ち込んだり、好きなアイドルのポスターや応援グッズなど趣味に関する物を置いている方もいる。加湿器を設置するなど、居心地よく安心して快適に過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が出来る事を積極的に手伝って頂き食器拭きや洗濯物たたみ等も進んで行ってくれたり声掛けしたり支援している		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171200124		
法人名	株式会社 恵み野介護サービス		
事業所名	グループホームだんらん 2階		
所在地	恵庭市有明町1丁目8番8号		
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果市町村受理日	令和2年12月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171200124-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの横に綺麗な川が流れ、春には渡り鳥が訪れ秋には鮭が遡上する等自然に恵まれ四季を感じられ、入居者様と毎年、楽しみに過ごしています。また、「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」をモットーに、入居者様に寄り添い・出来る事へ参加を大切に日々、元気な明るい職員と共に家事への参加・天気の良い日には周りの花々を見ながら散歩へ行き、近くの公園で近所の小さなお子様と触れ合いを持ち、入居者様の暮らしを豊かに・楽しく過ごして頂けるように支えています。また、ご家族との関係作りを大切に、2ヶ月に1回だんらん新聞を発行し、日常の様子を伝え面会時には、より詳しく様子を伝えるよう行っている。行事の際も、入居者様とご家族の絆を大切に一緒に過ごせる時間を作る工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の実践ができるように職員間で話し合い日常業務内で実践している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響により買い物・散歩等の対応が困難となり、出来る限りユニット内の行事などで交流を多くもてる様努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は夏祭り・避難訓練などイベントを通し認知症の人の理解や支援方法を地域の方へ発信していたが、今年はコロナの影響で自粛する事が多かった		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルスの影響で事業所内の会議開催となっていたが、職員間で話し合い議事録や資料を市役所・包括・町内会長へ配布し対応している		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を取り事業所の実情・ケアサービス・事故報告等を報告し繋がりを維持出来るよう努めている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を通し情報等共有し職員全体でも身体拘束をしないケアについて日頃から話し合いを行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から身体拘束や虐待を職員全員が理解し意識をもっている。また、ストレスを溜め込まないようコミュニケーションを図っている		

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者・相談員が外部研修や資料で学ぶ機会を持ち必要性のある利用者・ご家族が活用出来る様にしている			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時など、利用者様・ご家族の不安に耳を傾け分かりやすく話しやすい雰囲気を作るように説明をしている			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に声を掛け会話の中からご意見・要望を伺い報告・改善に努めている			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やヒヤリングは行えていないが運営に関しての職員の意見・提案があった場合は随時聞き運営に反映させている			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績・勤務状況の把握をし向上心もてる職場環境・条件について具体的な配慮や工夫が出来る様つとめている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者・職員の力量をおおよそ把握しており、研修等の参加の機会を設けスキルアップしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業所や市のネットワークの活動を通じて情報交換を行いサービスの質の向上させていく取り組みを行っている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望や不安に思っている事に耳を傾け安心と信頼を得られるように努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や不安やこれまでのご本人の生活や暮らしぶりを伺いどのように支援していただけるか話し合い意向に沿えるよう努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様の思いや状況を確認しニーズを把握した上で必要としている支援を見極め対応出来るように努めている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご本人と一緒に家事や作業を行ったり日々の会話を楽しむなど暮らしのパートナーとしての関係を築くようにしている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族様の思いや考えを尊重し、電話や来訪時にご本人の様子をお伝えしたうえ、ご家族の協力も得ながら共にご本人を支えていけるような関係を築くよう努めている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策の為、今年は思うように対応できずにいるが、面会制限がある中でも電話対応や玄関先にてマスクをつけた上での短時間の会話が出来る様対応している			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや日々の活動と一緒にいたり、間に入り会話する事で交流が持てるように工夫している			

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後の家族からの連絡はほぼないが何かあれば、相談に応じれるように支援している			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、面会等を通じ家族の意向や希望等を伺い本人とも日頃の状態や会話の中で思いを汲み取るようにしている			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人との会話を通じ生活環境や暮らし方など把握するようにしている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との会話・日常生活等細かくチェックし記録に記載していくことで把握に努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時、本人・家族の意向を聞きスタッフ間で話し合いモニタリングを行うことで良いケアに繋げている			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿っての実践が出来ているか気付いたこと等細かく記載しスタッフ間で話し合いをする事でケアプランの見直しに反映させている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	物品購入や移送支援等、相談に乗り柔軟な対応を行うようにしている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はコロナの影響で散歩や外出は控えているが、室内でレク等楽しみのある空間作りを意識し支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、それぞれのかかりつけ病院へ通院、または往診してもらい対応を継続している			

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日々の健康管理を行い早期発見に努めている。特変がある場合訪問看護の報告・相談し適切な受診やケアを受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書を提出し利用者様の情報提供をしている。又、入院中にも情報交換や相談し早期退院に繋げている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し本人・家族と十分に話し合い方針を共有・医療機関との連携しながらチームで取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはマニュアルがあり確認しているが定期的な学びや訓練は行っていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施し夜間・日中想定や火災・地震を想定したり、どの職員も速やかな避難誘導を行える様にしている		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの尊厳を配慮し日頃から本人の気持ちに寄り添い声掛けや対応するよう心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いを確認し状態に合わせ自己決定しやすい様働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様1人ひとりの個性やペースを重視し可能な限りご希望に沿えるよう対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問美容を手配し希望される方にはカット・パーマをしていただいている		

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	摂取状況に合わせて提供している。準備から片付けまで参加していただいている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	しっかりと栄養摂取していただきたく、残されたものの寮・原因を把握している。水分量も把握しコマ目に提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けや誘導を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しなるべくトイレにて排泄できるよう誘導や声掛けを行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトや牛乳を提供しそれでも便秘気味の方へは与薬の調整を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと湯船に浸かっていただき楽しい話や普段聞けない話をしリラックスして頂き個々にそった支援をしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中適度な運動をし生活のリズムを整えるよう支援している。又、寝室の環境整備も意識し対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成しどのような持病でどのような薬を服用しているか理解している。また、変更があった場合周知し症状の変化にも合わせて対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理せず体調にあわせ個々の出来る事を支援している		

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスのためが外出自粛にて対応が不十分になっていたが、室内レクや体操など出来るだけ体を動かしたりと支援している			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の困難な方はスタッフが管理し買い物・支払いを代行している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフルーム設置の電話は気軽に使用出来るようにしている。ご家族にもその事を電話でお話出来る様支援している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や日常生活等の作品を貼ったりして季節感を感じてもらったり思い出しながら楽しんでもらえるように工夫している			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	音楽やテレビを見てもらったりゆっくりお話ししたり、お花を見たりとくつろげる空間を作るようにしている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、思い出の写真を飾るなど個々に合わせ落ち着いて暮らせるよう配慮・工夫している			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声掛けの仕方や援助方法を話し合い自室・トイレ等も分かりやすく表示し少しでも自立した生活が送れるように工夫している			

目標達成計画

事業所名 グループホームだんらん

作成日: 令和 2年 12月 17日

市町村受理日: 令和 2年 12月 21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	現状把握シートやセンター方式シート(B-3)を活用し、生活習慣や趣味・嗜好などの情報を更に充実させるよう期待したい	一人ひとりの思い・希望を把握出来る様、過去や現在の趣味・嗜好を大切にできるように把握していく	①現在使用している現状把握シートとセンター方式(B-3)を使用し一人ひとりの生活習慣や趣味・嗜好の部分の情報を充実させ把握しやすい様にする	1年間
2	35	地震時の具体的なケアに応じた個別の対応について職員間で話し合い、マニュアルなどに分かりやすく綴るよう期待したい	災害の際の危険箇所の確認を全体で確認し修正したが、入浴中など細かい対応を具体的に検討していなかった。再度全員で検討しマニュアルなどに具体的に作成する	①入浴時など介助中に落ち着いて対応出来るようシュミレーションを行い具体的な対応マニュアルを作成し職員で統一する	1年間
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。